

「あなたのために生まれてきた」

世界は広いとは言え、「わたしのために、他でもないわたしのために神様の子どもがお生まれになった」と言い表す宗教って、多分、キリスト教だけだと思います。もちろん、細やかな神学的考察を加えれば、他の宗教にも似たような表現は出て来るかも知れませんが、そういう丁寧な説明を抜きにして、「なんか詳しいことは分らんけど、イエス様は、自分のためにお生まれになったんだ」という乱暴な理解が、不思議とキリスト教では無理矢理じゃないという点が、やっぱり、キリスト教だけの特徴なのだと思います。だから、今日こそ胸張って言いましょう。「イエス様は、わたしのためにお生まれになったのだ」と。

・・・と心の中で、確信に満ちて言い張ってみたり、あるいは、なんか引っかかって言い淀んでみたりした、今の心境って、どんな感じでしょうか？ クリスマス、救い主がお生まれになった、だから祝おう、喜ぼうというという、この礼拝で、正直に私たちの心に浮かんでくる思いや、願いや、訴えて、何でしょうか。

「ありがとう、イエス様、私の救いとなってくださった」という感謝なのか。「どうか、イエス様、私の苦しみを取り去ってください」という願いなのか。「なんだ、イエスとか、今日のニュースでも戦争の話聞いたぞ」という訴えなのか。綺麗事じゃなく、御慰みな言葉じゃなく、洗脳的な教えじゃなく、ただ正直な思いで、冷静な判断で、この世界を見た時に、クリスマスの意味って何なのでしょう？

クリスマスとは、単なる身内のお祝いなのでしょう？、外の世界と切り離れた狭い共同体の中で喜ぶだけの宗教行事に過ぎないのでしょうか。と言うか、そういう風に考えることさえ、億劫になり、疲れてしまった先で、毎年恒例だからという動機のみで続くお祭りなのでしょう？。これは、私自身の自問自答でもあります。クリスマスをお祝いするという事は、今の私にとって、どんな意味があることなのか。

「見よ、このような日が来る、と主は言われる。わたしはダビデのために正しい若枝を起こす。

王は治め、栄え、この国に正義と恵みの業を行う」。今日の聖書箇所には、そう書いてありました。

「ダビデのための正しい若枝」とは、私たちキリスト教においては、真の王である主イエス・キリストのことを指しています。そして、王であるイエス様は、「正義と恵みの業を行う」という。じゃあ、探してみましようか。今の私たちの周りに「正義と恵み」が確認できれば、かつてのユダヤ・イスラエルが救われたように、私たちも神様によって、イエス様によって救われるという信仰的な確信を持てるかも知れません。私たちの周りがある「正義と恵み」、何か思い当たることはありませんでしょうか？

「恵み」ということに関しては、一つ、私は思い当たることがあります。敦賀教会幼稚園の子ども達と一緒に過ごした一足早いクリスマスです。子ども達が演じたページェント、降誕劇は、牧師がこの講壇から長々と説教を垂れる以上の、喜びと感動を、お家に方々に届けてくれました。なんなら、敦賀教会の毎年のクリスマス礼拝で、子ども達のページェントの録画を鑑賞するというのも良いかも知れません。「クリスマスの出来事の解き明かし」という点では、どんな言葉にしても追いつかない程の、豊かな福音がページェントには込められています。あと、今年も幼稚園では、敦賀駅でキャロリングをしてきました。幼稚園のクリスマス礼拝と祝会で、十分にお祝いした後、その嬉しい気持ちを携えて、街の人たちにもクリスマスの喜びを伝えようと出かけていきました。と言っても、行った先での一番の聴衆は、お家の方々にありまして、でも、まあ、それはそれで、子ども達も安心できる環境で歌うことが出来たと言えます。ただ、一組、珍しいお客さんがおりまして、敦賀市の特定非営利活動法人である「きらきらくらぶ」の保育園の子ども達が聴きに来てくれました。「きらきらくらぶ」さんも、敦賀駅で作品展示をしていたとのことで、たまたまタイミングが重なったんですね。思いがけず、小さなお友達にも、クリスマスの歌声を届けることができました。

と言うように、少なくとも私にとっては、このクリスマスに関連して、「恵み」と思えるようなことがありました。皆様は、いかがでしょうか？ ただ一方で、「正義」に関しては、これは判断が難しいですね。私の正義が、万人にとっての正義とも言えないでしょうし、正義は気を付けないと、簡単に人を傷付ける力も持っています。クリスマスにお生まれになった赤ちゃんイエス様に、私が

期待することは、人を懲らしめ傷付ける正義よりも、人を労り、善人にも悪人にも反省を促すような、そんな正義です。もっとも、そんな悠長なことを言っていられない現実があることも否定はできませんが……。ただ、そこで諦めて、現実迎合するのではなく、「でも、やっぱり神様」と言って祈ることを止めないのが、キリスト者の務めであるようにも思います。「私たちにはできそうにないけど、神様とイエス様にはできるはずだ」という確信を忘れないことって大事ですよ。現実迎合していっただけでは、現状維持は出来ても、向上することはできないですから。

クリスマスと言うのは、明るい光や、温かな雰囲気の中で、ちょっとだけ現から離れて、特に根拠はなくても自分や隣人や将来に対して、希望を見出す日なんじゃないかと思います。そういう魔法のようなクリスマス効果ってありますよね。それはきっと、人間が意図的に作り出したものではなくて、色々な思惑が重なって、それこそ、商業主義的な思惑ばかり、教会側の信仰的な思惑も併せて、それらが、でも、人の意思を超えたところで、丁度良い感じに織り成されて、今のクリスマスの雰囲気は出来上がったのだと思います。そして、その背後に、神様の懐の深い愛と慈しみがあるんじゃないかと私は信じています。

神様の御計画と御業は現在進行形です。決して、聖書に書かれた時代で停止しているわけではありません。「それゆえ、見よ、このような日が来る、と主は言われる。人々はもはや、「イスラエルの人々をエジプトの国から導き上った主は生きておられる」と言って誓わず、「イスラエルの家の子孫を、北の国や、彼が追いやられた国々から導き上り、帰らせて自分の国に住ませた主は生きておられる」と言って誓うようになる」。この7節から8節の御言葉は、少なくとも聖書が伝承される過程で、神様の最新の御業が更新されていることを示しています。かつての神様の良い御業と言えば、イスラエルの人々をエジプトから導き出した出エジプトの出来事だったが、今や、神様の最も良い御業は、敵国に連れ去られたイスラエルの人々を再び自分の国へと帰らせたことである、と。神様の御業の記憶は、そのように新しくされ、未来に向けた広がりを持っているということです。

だから、私たちも聖書の中に記された良い出来事、嬉しい福音に目と耳を向けつつ、一方で、未来に心に向けて、これから神様はどんな素晴らしいことを実現してくれるのだろうか、人間にはで

きない御計画を示されるのだろうか」と期待に胸を膨らませていたいと思います。神様は大昔の人を救われた方ではありません。イエス様は2000年前の人々のために生まれたわけではありません。神様は私たちのために御心を傾け、イエス様は今を生きる「あなたのために生まれてきた」という信仰を、クリスマス礼拝の今日、今一度、しっかりと心に留めたいと思います。「彼の名は『主は我らの救い』と呼ばれる」。この「我らの救い」の「我ら」には、ちゃんと私たち自身が含まれていることを知って、御子イエス様の御誕生をお祝いしたいと思います。「わたしのために、他でもないわたしのために神様の子どもがお生まれになった」。

改めまして、クリスマス、おめでとうございます。目に見える世界には、確かに不安や不幸があります。クリスマス近づく中で、親しい人を亡くし、悲しみに暮れている人もいます。病気や怪我に苦しんでいる人もいます。でも、そんな人たちのことで、私たちが気を揉み、案じている時、神様も同じく御心を痛めておられます。そして、生きる元気を失っている人たちが再び、命を得るために、御子イエス様はお生まれになりました。クリスマスなんてお祝いしどころじゃないというところにこそ、その温かな恵みと祝福が行き渡りますように。クリスマスの喜びと感謝と、更なる願いを込めて、最後にお祈りを致します。

神様。

私たちは今日、あなたの尊い御子イエス・キリストの御誕生を祝う礼拝をお捧げしています。あなたは、この世界を愛し、慈しみ、その確かな徴としてイエス様を与えてくださいました。私たちの世界は、未だ平和ではなく、争いや憎しみが消えることはありません。しかし、そのような世界だからこそ、御子の輝きは尊く、価値があるものと信じます。どうか、目に見える世界に不安を憶え、未来に対する希望を失いがちな今日、私たちが自らの心に御子をお迎えし、明日への期待を持って日々歩むことができますように、導いてください。また、私たちのことを平和の使者として、あなたが用いてくださり、この世界が、私たちの隣人が、少しでも安らぎを取り戻し、穏やかな毎日を過ごすことが出来ますように。あなたの限りない祝福と恵みが、あなたの愛する全ての人たちの上に、豊かに注がれますように。お願いを致します。

このお祈りを平和の御子イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。